

## おわりのことば

今年度の学校研究を語る時には昨年度までの三年間の学校研究の経緯に多少ふれる必要があります。

昨年度までの三年間の学校研究では私たちは従来の本校の教育観をICFの理念を踏まえて見直してきました。教育観の見直しの中でも大きなものは児童生徒の目標設定の視点の変更でした。具体的には、従来は児童生徒の不得意なこと、苦手なこと（課題）を目標にすることが多かったように思いますが、それに対して新しい教育観では児童生徒が当面こうしたい、なりたいという自己像や生活像を盛り込んだ目標にしようと考えました。

この趣旨を踏まえて数事例の教育実践を行ないながら、目標の立て方や評価のしかたを学んできました。実践を行なう中で必然的に個別の教育支援計画や個別の指導計画の書式の変更も行ないました。

今年度の学校研究は全校の児童生徒へ本校の新しい教育観を適用した教育実践を行なうというものです。新しい教育観のもとで今後、全校規模で教育実践が可能なのかどうかの試金石となる研究です。そういう意味で、本校にとって非常に重要な研究であり、一年でありました。

今年度の研究を行なうにあたり、私たちに求められた課題が二つありました。一つは、全校の児童生徒の大目標にせまるための年間指導計画を立案することです。もう一つはカスタムメイドで企画された支援を実際の授業でどう行なうのかを検討することです。

紀要には実践例として小学部からは学級での実践と小グループでの実践が掲載されています。中学部からはグループ集団の実践が掲載されています。高等部からはコアカリキュラムを軸として、個々の生徒の目標にせまる実践が掲載されています。

これらの実践を通して今私たちは本校の新しい教育観のもとで今後、全校規模での教育実践が行なえそうな感触をつかんでいます。

実践にはまだまだ不十分な点が多々あるかと存じます。皆様からの忌憚のないご指導、ご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、金沢大学の先生方には研究協力者としての的確なご指導ご助言を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

副校長 今井康弘

# 研究同人

## 研究協力者

小学部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	教授	吉川	一義	氏
中学部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	准教授	武居	渡	氏
高等部	金沢大学人間社会研究域	学校教育系	准教授	河合	隆平	氏

校長 酒 寄 淳 史  
副校長 今 井 康 弘  
主幹教諭 山 田 富 美

小学部	新 保 利 久	中学部	神 谷 みつ江
	木 下 由 起		戸 谷 茂
	竹 下 規美代		吉 田 華恵美
	竹 内 里保香		中 村 由美子
	永 井 文 人		中 川 伸 明
	三 宅 和 憲		田 村 吉 治
	岡 部 亜希子		福 田 貴 子
	柳 生 美由季 (研究主任)		北 潟 理 美
	東 田 幸 江 (講)		尾 山 登志子 (講)

高等部	下 野 令 子	全校級外	近 藤 明 子
	吉 藤 篤 史	養護教諭	藤 川 典 子
	鶴 尾 千亜紀	栄養教諭	寺 口 真 弓
	村 瀬 真理子		
	村 野 智 康	旧同人	山 本 仁
	小 足 進 午		橋 本 直 紀
	伊 藤 久美子		山 田 哲 男
	鍛冶口 誠		西 田 志 伸
	小山内 悦 子 (講)		
	中 谷 至 子 (講)		